

考察

①職員数及び園児数と苦慮件数の関係から

- 職員数が少なく園児数が多いほど苦慮した件数が多いことから、ひるがえって、保育士1人に対する園児数が少ない場合には苦慮件数は少ないと言えるのではないか。

→保育者の配置が最低基準よりも多ければ、保育者1人あたりの業務軽減を図ることができる。

→ノンコンタクトタイムや休憩時間の他に、保育者同士の情報共有や話し合いの時間の創出も可能に。保育環境についての話し合いや子どもの発達についてのカンファレンスを通じ、保育の質向上を目指すことも可能となる。

結果、保育者に心身のゆとりが生まれ、かつ、様々な子どもたちへの対応における保育士たちの熟達を通して、子どもへの対応への苦慮を減らしていくのではないか。